

共に味わう

住好会
体験会

前橋 前橋市住吉町1丁目の老人クラブ「住好会」（大嶋進会長）は28日、同所の集

会室で毎月恒例のそば打ち体験会「住吉そば道場」を開き、住民約10人が手製のそばを味わって交流した。

そば粉を8割使う二八そばに挑戦した。そば打ちは初めてという参加者も指導を受けながら、丁寧に生地をのべしたり、慎重に包丁で切ったりして仕上げた。写真。打ち立てをその場で味わい、出来栄の評価などで会話も弾んだ。

そば打ちを習った大嶋会長らの発案で2年前に始め、毎月最終木曜の恒例行事として定着している。大嶋会長は「住民同士が交流する場。これからも楽しんで続けたい」と話している。（石倉雅人）



かれい、訪ねた人たちに力になる演奏と、松本さんの芸能への熱い思いに聴き入った。奈良県出身の松本さんは社会人になってから民謡と出合って修行に励み、三味線や尺八の奏者となった。欧米やアジアなど海外各国でボランティア演奏を度々行い、民謡を通じた日本文化の発信に努めている。松本さんは講演で、訪れた

額作品やバッグ、アクセサリー計100点を展示する。齋藤泉さん（前橋市）に師事し、20年以上創作を続ける串田早苗さん（73）は高

日本レフティゴルフ協会群馬支部長

新井 登さん（74）

前橋市三俣町

趣味でゴルフを始めた40年ほど前、左利きのプレーヤーはほとんど見かけなかった。道具も簡単に手に入らない時代。自身の狭い思いをしながらプレーしていた。

その後、プロ野球巨人で活躍した故川上哲治さんが会長を務める「日本レフティゴルフ協会」の存在を知り、メンバーに加わった。徐々に県内在住のプレーヤーが増えていったことから、2004年に同協会群馬支部（群馬レフティ会）を設立した。



左利き仲間、有意義な時

コロナ禍の間も対策を講しながら、年に5回ほどコンペを開催してきた。ジュニア育成や被災地支援に活用してもらおうと、チャリティーコンペも開いている。

現在は本県以外に新潟や長野など隣県も含め、40人ほどの会員がいる。ただ最も若くて50代と年齢層は高め。趣味が多様になり、若い世代にゴルフを楽しむ人が減ってきた現状を残念に感じる。そこで「結果よりもメンバーがどれだけ有意義な時間を過ごせるか」を重視しているという。

支部設立から20年。「これからももっと会員を増やし、みんなで楽しくプレーしていきたい。まずは参加してもらえたら」と、輪が広がることを願っている。（臂真里緒）



「紳士のスポーツだからルールを守る必要はあるが、上手下手は関係ない」と話す新井さん

創的な作品を60点紹介している。4月2日まで。2人は松本孝さん（77）＝埼玉県朝霞市、写真左＝と木下順子さん（77）＝神奈川県藤沢市、同右。三軌会評議員の松本さんは顔をテーマとしたものや、風景の構成要素を抽象的に表現した個性豊かな作品を出品。「アートは自由であることを伝えたい」と話した。木下さんは水彩やアクリルを用い、ベトナムを訪れて見た風景や孫、愛猫を色彩豊かに描いた作品を展示している。午前10時～午後6時（最終日は同5時）。（丸山朱理）

SANKYOが市に500万円寄付

伊勢崎

地域に安定した雇出しようと、遊技機1のSANKYO（伊勢崎）の渋谷区、石原明彦社長は企業版ふるさと納税を活用産拠点のある伊勢崎市に500万円を寄付した。

市役所を訪れた高井克昌行役員製造本部長は写真左臂泰雄市長が感謝状を贈る。井常務は「雇用を促進してとで、地域の発展に貢献し」と述べ、臂市長は「市民が

全国出場を市長に報告



ひとり親家庭の親子70人が交友みどの福祉会が食

高崎 社会福祉法人みどりの地域貢献事業部ひろみ代表）は、家庭に食料を配る「まんまトリイ&ランチ会」を高崎町デイサービスセンター。親子約70人が参加し、